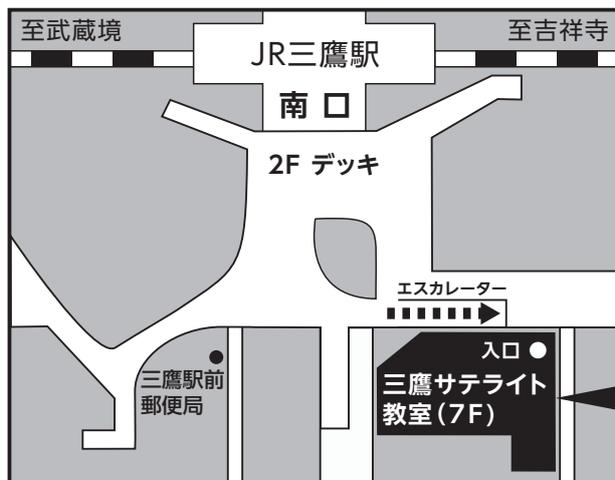


畜生・餓鬼・地獄の三悪道の世界を考える

受講料 (振込額)	12,500円				
必携テキスト	『畜生・餓鬼・地獄の中世仏教史 因果応報と悪道』 [吉川弘文館1,870円(税込)]				
講座概要	曜日	月曜日		日程 11月6・20日 12月4・18日 1月15日	
	時間	10:00~11:30			
	回数	全5回	定員		40名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F / 大教室			
講師	本学教養教育学リサーチセンター研究員・東京大学史料編纂所史料情報管理チーム 生駒 哲郎 (いこま てつろう)				
	専門は日本中世宗教史、日本古文書学会編集・大会運営委員。立正大学大学院文学研究科史学専攻博士後期課程満期退学。山梨県身延山久遠寺、大田区池上本門寺、石川県羽咋市妙成寺などの史料調査委員を経て、現在、武蔵野大学教養教育リサーチセンター研究員・東京大学史料編纂所非常勤職員・東京都渋谷区文化財審議委員。主要著書日本の名僧6『重源:旅の勸進聖』(共著 吉川弘文館)、『中世の寺院体制と社会』(共著 吉川弘文館)、『中世の寺院と都市・権力』(共著 山川出版社)、『山岳信仰と村落社会』(共著 岩田書院)など。				
内容	仏教には六道という六つの迷いの世界があると考えられています。六道のなかでも畜生・餓鬼・地獄は三悪道とされます。中世の史料に「悪道」、「悪趣」などの記事がみられますが、悪道とは地獄ばかりとは限りません。「悪道」、「悪趣」とは、これら畜生・餓鬼・地獄を含めた意味で語られる場合があります。				
	六道のなかでも私たちの世界である人間界を含めた天・人・修羅の三善道と三悪道では何が異なっているのか。悪道は来世に堕ちたくない世界であることはわかるのですが、善道と悪道の違いから、因果応報や来世と言った現代人と異なっていた中世人の仏教に対する観念を考えます。こうした中世人の感覚を踏まえて、古典や説話を読むと、また違った中世像が見えてくると思います。				
	①11月 6日：畜生道の衆生 ②11月20日：愛欲と畜生 ③12月 4日：畜生の殺生 ④12月18日：神仏習合と畜生 ⑤ 1月15日：畜生の敵討ち				



武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013
東京都三鷹市下連雀3丁目26-12
三鷹三菱ビル

JR中央線・総武線
東京メトロ東西線
JR 三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 7F
(三菱UFJ銀行のビル)

1F入口からお入りください

- 「受講の手引き」を必ずお読みの上、ご参加ください。